

時代を横軸ではなく
縦軸に見る

——10代でイタリアに留学されたということですが、土木建造物に対する考え方は変わりましたか。

ヤマザキ——私は東京で生まれましたが、母親の仕事の都合で北海道に長く暮らしていました。そして、14歳のときにヨーロッパに一人で旅をし、そのとき知りあったイタリア人の老人に招聘されて17歳のときに油絵を学ぶために留学しました。

空港に着くと、リムジンバスで、ローマの近郊にあるエウルという近代都市を通り抜けていきます。そのとき初めて2000年前の建物を目の当たりにしました。ごく自然に他の建物と渾然一体として建っているのです。それがまず驚きでした。それから、テルミニ駅で列車に乗り換えるのですが、近くにはディオクレティアヌス帝の巨大な浴場があります。1600年前の公衆浴場です。保存状態が良く、しかもそれがまちの一部になっており、古いからといって排除されていないのです。古くなったら立て直す、古くなったら新しくするという日本の概念の中でしか生きていなかったたので、日本とは違う世界に来てしまったのだという衝撃を受けました。

そこにある建造物は、単に石の建造物というだけでなく、建造に携わった人間の力が、時間や空間を超越して存在しているのです。時代を横

ヤマザキ

YAMAZAKI
Mariマリ
さん

に伺いました

古代ローマ帝国の浴場技師が日本にタイムスリップするコミック「テルマエ・ロマエ」。その目線からの日本の土木を伺った。

軸に見るのではなく、縦軸に見ていくべきなのだと、そのとき感じました。

土木建造物と
共存して生きていく

——日本では土木というと、環境を破壊するとか利権だとか、悪いイメージを持たれています。イタリアではどうなのでしょう。

ヤマザキ——悪いイメージはありません。もう少し身近なもので、子どもときから一緒にそこにあるものですから、こんな建物をつくった人はいくらなんでもどんな目的でつくったのだろうかとか、必然的に考えてしまうわけです。世界のどこかのどんな歴史を見ても、土木建造物というのは

必ず出てくるわけで、すべてにつながっています。歴史をやっている者だけでなく、他の分野の勉強をしていようと、文学をやっていようと、それは密接につながっているもので、共存して生きていくものと言う考え方はです。ですから、悪いイメージというのはまったくありません。

土木のために命を
捨ててもいい

——「テルマエ・ロマエ」の主人公の古代ローマの浴場技師ルシウスと重ね合わせて、ヤマザキさん自身は、日本の土木技術者にどうあつてほしいと思っっていますか。

ヤマザキ——ルシウスというのは自分の仕事にす



ごく誇りを持っており、時代とともに風化してなくなるものをつくるのではなく、これから自分より長くはるか後世に残っていくものをつくらなければならぬと思っています。しかも、自分が携わっているものは、古代ローマというすごい深さで歴史を刻みこんだ中の要の一つなのだという強い意志があるわけです。一緒に暮らしていたら大変でしょうけど、一技術者としてみたときには、それくらい真剣にこだわってくれる人の方が頼もしいですよ。

彼は、暑苦しいほどの熱血野郎ですから、本人も土木技術者とは、熱意を共有したがると思う

のです。映画の中では、ルシウスは土木のために命を捨ててもいいというようなことを言います。それくらい命がけで仕事をし、自分はそのために生まれて来たのだということの名刺のように背負って立っています。ですから、多分日本の土木技術者にも、そういう人を求めてしまうのではないかと思います。

復興のためには 公共の場が重要

——東日本大震災の震災地では今後復興が始

まりますが、復興の観点から土木技術者に持つてもらいたいものはありますか。

ヤマザキ——ローマが繁栄できたのは、まず道をつくり、水道を引いたからです。それまで古代文明は、川べりの水が自然に流れている場所を必要としました。それを、人工的に水道を引いたことで、都市として広げることができたのです。インフラは、人間の営みに欠かせないので、一番頼りにするものです。人はそこをよりどころとしなければ生きていきません。被災地でも、野ざらしで遊牧民として生きていくわけにはいきませんし、津波が来るからこれからはバオに暮らそうというわけにはいきません。人を生かし、暮らさせてくれる都市や都市構造のためのインフラの再構築は何よりも先に進めてもらいたいものです。

もしルシウスが被災地にいたら、声を大にして「まずは道路だ！」「まずは水だ！」と言って活躍したと思います。また、インフラ整備が終わった後の復興では、それぞれの家屋も大事ですが、公共の場というものが重要になります。仮設住宅で暮らす圧迫感や、震災に対するショックといったものを和らげ、開放させる何かをルシウスだったらつくると思います。お風呂でなければ、みんなで集える集会場でもいい。まず落ち着いて冷静になつてこそ、いろいろな判断もできるようになります。みんなが集まって活気を感じる場所をつくる。人間は個人的に生きている生き物ではないですから、そういった皆が集え、憩え、情報が交換できる場が大切だと思います。